

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	計画策定と実行プロセス／産品開発
手法名	地域の伝統作物「豆」に着目した特産品開発による地域再生事業の展開
主体	福島県鮫川村
背景(地域の課題)	<p>里地里山は、農林業を中心とした人々の営みによって支えられており、農業の営みが四季折々の花々や生き物たちの多様性をもたらしているという特徴がある。</p> <p>したがって、里地里山の保管理を行い、有効な活用を促していくためには、小さな経済を大事にしながら無駄のない循環型農業の営みをいかに安定させるかが大事であり、そのための計画作りと実行プロセスがポイントの一つになると言える。</p>
手法／方策の詳細	<p>合併をせず自立の道を選択した福島県鮫川村では、地域再生計画の中で地域の伝統的作物である「豆」に着目。生産奨励や特産品開発、販売促進を一体的に行うことで、地域活性化を促している。</p> <p>1)豆に着目した地域再生計画 農業、地場産品の振興により村を活気づけると共に、高齢者の生きがいや健康づくり、特産品の開発を目標として掲げ、「大豆」に着目した地域再生計画を取りまとめ活動を開始した。</p> <p>2)大学の知識・技術を生かした産品開発づくり 村内の旧給食センターを味噌加工施設に改装し、大豆加工技術習得のため若手役場職員を東京農業大学へ研究生として派遣した(写真1)。大豆はイソフラボンや良質なたんぱく質を含んでおり、幅広い加工品領域があり商品開発の可能性がある。また、大豆栽培を奨励することで耕作放棄地の増加を防ぐことも企図されている。</p> <p>取り組みのねらいの中には、味噌、醤油、豆腐、黄粉などは日本人の食の基本であり、その持っている健康性に注目している。これらの食品は毎日食べるものでもあることから、良いものを育てて食べて健康増進を図るといった発想がある。</p> <p>3)地域の高齢者の知恵と技術に報いるサポート制度(写真2) 「まめで達者な村づくり」をスローガンに次の取り組みを実施。①大豆の栽培奨励(60歳以上の高齢者に種子代を補助)、②栽培者研修会を開催(化学肥料農業に頼らない栽培法の普及と栽培記録の徹底)、③「まめおとし」のためのピン・ハーベスター(脱粒機)の導入、④価格保証による全量買い取り(再生産意欲の向上と労働に報いる価格保証)</p> <p>4)地域住民に配慮した価格設定と「お裾分け」の発想による販売促進 旧幼稚園を改修・再活用し、農産物加工直売所「手・まめ・館」としてオープン。加工と販売、レストランに利用している。村内で生産されたものを取り扱うことにこだわり、地元住民が購入できる価格設定にすることで、地域に根差したものとしている。また、外部の方から訪れる人たちには地域の産物をお裾分けするという発想による運営がなされている。年間1億円の売り上げがあり、10万人が利用しその6割が村外の人で、リピーターも多い施設となっている。</p> <p>5)学生など外部参加者との交流による取り組みの推進 東京農業大学をはじめ首都圏の大学のゼミ・研修等を受け入れており、連携活動を通じて、里山の保全や農地の保全整備を行いながら、交流を深めている。</p>
手法・技術的視点	<p>1)地域の伝統的な農業の営みや資源を基盤にした産品開発 地域になじみ深い「大豆」という素材に取り組みの中心を置くことで、地域の伝統的な農業の営みに立脚した資源利用を促し、様々な産品開発を展開させている。各地の地域資源への着眼点や発展的活用を検討する際のモデルになると考えられる。</p> <p>2)栽培者のモチベーションを向上する仕組みと制度 栽培奨励のために、高齢者への種子代の補助や価格補償による全量買い取り等、きめ細かなサポート体制が組まれている。また、その補助の趣旨も、栽培者のノウハウや労働への対価といった明確な理念のもとで考えられており、栽培者のモチベーション向上に効果的な結果をもたらしている。農業者に対する同種の補助・助成制度を考える上で示唆的であると言える。</p>

<p>実行プロセス・運営体制のイメージ</p>	<p>・鮫川村における大豆産品開発を軸とする地域再生計画の実行プロセス</p>  <p>「まめで達者な村づくり」事業メニュー</p> <ul style="list-style-type: none"> 大豆の栽培奨励 ・60歳以上の高齢者に種子代を補助(500円/kgを100円で配布) 栽培者研修会の開催 ・なるべく化学肥料、農薬を使わない栽培法を普及。全員が栽培記録を提出 高性能農業機械の導入 ・「まめおとし」のためビーンハーベスター2台を導入 価格補償と全量買い取り ・500円/kgで買い取り。収穫の喜びが明日への(再生産の)意欲の向上と汗に報いる価格補償がねらい。
<p>図・写真資料</p>	<p>写真1 東京農業大学での研究開発活動</p>  <p>写真2 農家を巡回しての脱粒作業</p>  <p>写真3・4 「手・まめ・館」</p> 
<p>参考資料</p>	<p>平成24年度里なび研修会in岐阜県パワーポイント資料(入江彰昭氏)</p>